



生活文化



施設



広瀬幸平

64  
まいん

## きゅうひろせてい 旧広瀬邸



旧広瀬邸母屋

きゅうひろせてい  
旧広瀬邸は、

明治中期の大規模和風住宅で、平成15年(2003)5月、新居浜市初の重要文化財として指定されました。

主屋は、当初、明治10年(1877)に久保田町に建設されました。

わようせつちゆう  
和洋折衷の風情が薫る  
ふぜい  
かお  
新居浜初の重要文化財

その後、明治18年に移転開始、現在地に明治20年、移転・増築されました。明治22年には、附属の新座敷と庭園が大坂の棟梁八木甚兵衛と植木屋清兵衛の手によって竣工され、その後、大正・昭和初期にかけて、南庭や中之町池(亀池)周辺を整備し、現在の姿になりました。



望煙楼から市街を展望

障子に用いられているガラスを初めとして、避雷針、洋式トイレ、暖炉など数多くの西洋からの輸入品を見ることがもできます。

また、これらと和風建築が見事に調和しています。

母屋二階の望煙楼と呼ばれる部屋の窓からは、新居浜市街を見渡すことができます。



新座敷



暖炉に握りごたつの組み合わせ

ふれあいめぐりあい

やま オーソリティ  
別子銅山の語り部

すえおか てるあき  
末岡 照啓

さんは、新居浜市広瀬歴史記念館名誉館長をお務めされています。また、住友資料館の主席研究員もお務めされています。

別子銅山の歴史、近代化遺産の保存・活用など、まちおこしの分野でもご指導・ご鞭撻をいただいています。

末岡さんのお話は非常に分かりやすく、また私たちに勇気を与えてくださいます。別子銅山 300 年の歴史の奥深さもさることながら、末岡さんのお話にはいつも新しい発見や出会いがあります。



すえおか てるあき  
末岡 照啓さん

